

ゼミ活動報告 「7期生にとって初めてのゼミ合宿」

氏名 藤村咲希

2月18日・19日に城崎で7期生にとって初めてのゼミ合宿が行われました。ゼミ合宿はどんな感じなのだろう？何をやるのだろう？とワクワクしつつも少し不安を抱えながらバスで城崎まで移動しました。

城崎に着き、旅館に荷物を置いた後、まずはゼミ活動として宮川先生による就活ガイダンスが行われました。仕事を考えるきっかけ作りのために業種を大きく分けてみることに、業種に対する固定観念を捨てること…など、これから就活を控える6・7期生にとって非常に参考になる講義内容でした。

就活ガイダンスのあとは温泉街を自由散策し、短い時間をうまく配分して外湯を巡り、広い湯船に浸かって疲れを癒すことができました。

温泉の後は待ちに待った夕食！とても豪華なカニ鍋でした！カニ鍋に熱燗という最高の組み合わせをじっくり味わいたかったのですが、カニなんてめったに食べないため、うまく食べることができず、悪戦苦闘している一方で、旅館の方がハイペースでカニを鍋に投入していくので、みんな無言でひたすら食べるという、少し慌ただしい状況でした。カニ鍋の締めはカニみそを入れたカニ雑炊で、これもまた最高に美味しく、非常に贅沢な夕食でした。



夕食後はER班企画のレクリエーションが行われ、5つのチームに分かれてゲームをし、みんなで盛り上がったのですが、私のチームは最下位という結果になり、罰ゲームでワサビ&からし入りシュークリームを食べさせられ、かなり悲惨な目にあいました。ER班企画のゲームが終わった後も他のゲームをしたりして、夜遅くまで楽しく過ごしました。

2日目の朝はゆっくり過ごし、朝食後は楽しみにしていた特別ゼミ「声と体による表現力のエチュード」

が行われ、「自分自身の声と出会おう」「自分自身の体と出会おう」「他人と自分の声と体で遊ぼう」の3つを体験しました。まず、声を出すときは、頭、鼻、口、喉、胸の5ヶ所を使っていて、知らず知らずのうちに、よく使う部分と使わない部分があります。私の場合、鼻から喉を使って声を出すことは簡単にできたのですが、頭と胸を使って声を出すことはなかなかできず、自分の声の幅をはっきりと知ることができました。また、自分の声の特徴として、声が途中で落ちてしまうことや、大きさ・高さ・速さ・間・色（やさしく、きつく）の違いで伝わる感情が大きく変わるということがわかりました。

2つ目の「自分自身の体と出会おう」では、目をつぶって相手によりかかるという体験をしました。相手が必ず支えてくれるとわかっていても、怖くて肩やお腹、足に力が入ってしまいました。この時力が入ってしまう場所は、緊張したときに力が入ってしまう部分であり、緊張したときはこの部分をほぐしてやれば良いということがわかりました。

3つ目の「他人と自分の声と体で遊ぼう」では、ペアの人の動きをまねしたり、1人が素材、もう1人が彫刻家になって作品を作るという体験をしました。素材にあった表現を考え、形にすることは難しいのではないかと最初は思ったのですが、彫刻家になった人たちのセンスが素晴らしく、どれも個性が発揮された面白いものになりました。特別ゼミでは難しいことをするのではなく、自分の声や体を使って遊ぶことで、表現にはいろいろなものがあり、同じ文脈でも表現1つでガラリと変わってしまうということがわかり、ま

た、様々な表現の仕方を意識することの大切さを学ぶことができました。

特別ゼミの後は自由散策の時間で、但馬牛を食べるために城崎を歩き回りました。丁度お昼の時間だったので、満席のお店が多く、待たずに入れるお店を探すことに苦労しましたが、なんとか但馬牛のハンバーガーを食べることができました。ボリュームがあって肉汁たっぷりのハンバーガーは格別に美味しかったです。お昼ご飯を食べた後は、時間があまり残っていなかったため、急いでお土産を買いに行きました。



5期生の先輩方と一緒にいく合宿は今回が最初で最後ですが、この2日間で先輩との距離がぐっと縮まったように感じました。最初はゼミ合宿に対して少し不安がありましたが、とても楽しく充実していて非常に良い思い出になりました。

最後になりましたが、今回の合宿を企画してくださった6期生PA班のみなさん、ありがとうございます。バスの運転手さんや旅館の方と頻繁に連絡をとってスケジュールを調整し、細かいところまで配慮している姿に感心しました。本当にありがとうございます！

